

二〇二六年「平和への誓い」を読み上げて  
映画を通じて平和なアジアへの一歩を  
歌「座りこめ」への「ハハ」  
わだつみのこえを平和へつなぐ  
二〇二六年参院選／結果は何を示すか  
月刊イオ創刊から二〇年、さらに「つながり」を

長崎被爆者手帳友の会 会長 井原東洋一  
映画監督 会員 今村一男  
日本音楽協議会 会員 渡辺總子  
わだつみのこえ記念館 館長 佐久間誠  
名寄市議会議員 月刊イオ編集長 琴基徹

労働者通信

目標を失わせる「目標管理」  
「新しい手法」に曝される教育労働者  
高江・二〇二六夏  
友の祖国を訪れて  
垣根を越え集った脱原発の象徴

看護現場で今、守らなければならぬこと  
「民主主義を取り戻す」ために何を否定すべきか  
高江の闘いから受け止めたメッセージ  
近くて遠い国を身近に感じて  
千葉ハッキョの会呼びかけ人  
経産省前アンソウひろ  
ばの五年とこれから テントひろば運営委員  
看護師 看護師 藤原和美  
神奈川・教育労働者 藤原晃  
むさしの科学を戦争研究会 五郎丸聖子  
川柳作家 堀川久司  
乱鬼龍

＜インターナショナル・レビュー＞ ●朝鮮の原則的立場 李容浩朝鮮外相の第七一回国連総会での演説 ●戦争の道の終着点は破滅の墓があるのみ 「安全保障関連法」強行採決二年にあつた『労働新聞』論評 リ・ハクナム ●希望は資本主義の野蠻を打倒する人民の闘いにある！ 欧州共産党労働者党イニシアチブ

司法制度の埒外から議論の対象へ

人種・民族差別被害者の救済のために

東京造形大学教授 前田朗

必然の世代交代で足元を脅かされている強硬派

マスコミはこのまま空白の期間を延ばすのか？

琉球大学名誉教授 高嶋伸欣

特集にあたって

反帝・反植民地思想の確立を！

一貫する在日朝鮮人への反共・治安攻撃と闘うために

大阪朝鮮高級学校教員 チェ権一

沖縄と本土の協働を求めて

この人に聞く

「琉球新報」東京報道部長 新垣毅

世界資本主義のさらに深まる長期停滞

人民の抵抗は伏流する

世界経済分析 小野利明

安倍政権とメディア支配

ナチス式壞憲に向けた報道統制

「人権と報道・連絡会」世話人 ジャーナリスト 山口正紀

諦めないたたかいたかいたの原動力とは

時代への視座から掴まれてゆくもの

編集者 米丸かさね

特集 帝国主義支配をどう打ち破るのか

本誌編集部

25

＜状況2016秋＞

国際 ●英国のEU離脱  
文学 ●革命家が孵化するとき  
映画 ●意志は強し 生命より強し

資本主義の矛盾の先鋭化と激化する階級闘争  
「蓋のシンフォニー」超高速！参勤交代リターンズの可能性  
国際政治研究 沖江和博  
学習塾 アルバイト 吉田晶子  
映画研究 遠藤裕二

＜書評＞ 強烈な思想闘争を伴い構築された教育思想の書

横田三郎著『現代人権教育の思想と源流』横田三郎コレクションを読む

大阪朝鮮高級学校教員 夫才修

＜読書ノート＞ 立野正裕著『未完なるものへの情熱』

英米文学 エッセイ集

HOWS受講生 伊藤龍哉

＜研究ノート＞ 宮本百合子の戦中・戦後(中)

『婦人と文学』(一九四七)を読む

戦後文学ゼミ会員 HOWS 松岡慶一

＜短歌＞ 唯唯諾諾

歌人

荒川源吾

＜川柳＞ 笑歌 脱原発テント離子

笑い

茸 48

＜連載＞ 原発事故被災者の声

今中哲二 137  
國分富夫 85

東日本大震災・壊滅地区復興委員だより  
波来土の漫画館  
イラスト通信  
金野正晴 125  
波来土 73  
広浜綾子 15

＜発言台＞ 日本を相対視する沖縄地方紙

本紙前号の沖縄特集を読んで

アジア近現代史研究 佐々木辰夫 172

＜表紙の作品について＞ 崖っ淵に立つ(二〇二二年)

写真家 松尾忠男 5

＜デザイナーの独り言＞

デザイナーの独り言

追川恵子 176

編集後記 176

表紙デザイン・追川恵子 イラスト・金山政紀

